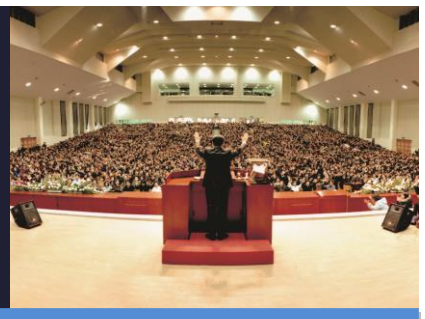
第 2017-50 号

恵みと真理のニュース



2017 年 12 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

私の道を予備し摂理してくださって、聖歌隊の伴奏者と教会学校の教師として主のことに献身する恵みをくださった神様を賛美します

私　私ん家族に日曜日は休んで遊ぶ日でした。ところが私が小学校3年の時でした。普通と違って日曜日の朝目が覚めて居間に出たら父親が見えなかったです。そして、何時間後に父が聖書を持って家に帰ってきました。どこに行って来ましたかと聞いたら教会に行って来たとしました。その瞬間けげんな気がしました。なぜならその時まで私の家族を伝道する人がいなくて今まで教会と遠い家庭だったからです。

なぜ急に教会に行ったのか聞くと父がお答えは"母が結婚する当時にお祖父さんが結婚して必ずイエス様を信じて教会に通うように聖書3冊も結婚のプレゼントでくれたが、今日ふっと教会に行こうと思って恵みと真理教会に行って来たそうです。その時から父は主日礼拝だけでなくて月曜祈り会、水曜祈り会、金曜祈り会まですべての礼拝に休まずに参席しました。そして、母と私も一緒に行こうと誘いました。父は小学校3年生だった私と妹の手をついて教会に行きました。

翌年に父が私に教会学校のピアノ伴奏をするのを勧めました。私はピアノを習うところでしたがまだ、教会の子供達と仲良くなかったし、礼拝伴奏が難しく考えて無条件に嫌だとしました。教会学校の先生に続いて教区の伝道師と牧師まで私に伴奏者で奉仕するのを勧めました。後は勧めが大きいストレスになって教会に行きたくないと思いました。

そのように伴奏者で奉仕を嫌がった私だったが、中等部に入って急に心で伴奏者で奉仕したくなりました。父は中等部の先生に私の思いを伝えました。私は1年間聖歌隊員と賛美団のシンガーで奉仕した後、中学校2年生から伴奏者で奉仕するようになりました。初めは下手でしたが、熱心に祈って熱心に奉仕しながら神様の恵みで実力が上がって自信が出来て奉仕するのが楽しくなりました。しかし、信仰が弱くて足りなかったです。時間が経つと私を伴奏者で建てて下さり実力が背長するようにしてくださった神様の愛に対して感謝する心がなくなって、単純に日常化になって礼拝時間に居眠りばかりしました。また、友達に会って遊ぶのが楽しくてピアノを弾くが好きで教会でピアノを弾いていました。このような事実を後で悟りました。

大学の作曲科と進学を目標で高校2年から作曲勉強をはじめたが、専門的に音楽勉強しながらピアノを弾くのが自分の能力で才能だと高慢な考えをしました。そうしながら教会で奉仕することに感謝しなくて"私ではないと誰がするの。当然私がやるよね。"と考えて奉仕しながら小さい事も不平不満を表しました。

そうするうちにある日、説教を聞く中で自分を姿を見るようになりました。初めて奉仕したその時を思い出して私の全てが神様の恵みで神様の計画であること

を深く悟りました。悔い改めてピアノを演奏するタレントをくださって清い礼拝の伴奏者の場で立たせてくださった神様に真に感謝しました。そんな後、神様の恵みで大学に進学しました。

成人礼拝で伴奏者で奉仕したい希望が出来て神様が私が20歳になるとその職分を与えてくださいと祈りました。神様の恵みでその希望も叶えられて20歳になるとすぐ金曜礼拝の伴奏者で奉仕するようになりました。しかし、大学に入学してみたら金曜礼拝の伴奏者で忠実に奉仕することが出来ない環境でした。科の特性で金曜日の夜に必ず参席しなければいけない演奏会と行事が多かったです。よく奉仕を休むようになって神様に申し訳なかったし、聖歌隊の執事にも済まないと思いました。教会の奉仕も重要だったし学生として学校の行事もおろそかにしなかったです。どうするかわからなくて神様の導きと助けを願いどの時より多く神様に祈りました。

そうする中で月曜祈り会で明確な解答を聞きました。当会長の牧師の説教の中で私たちが世の中で生きる間、肉身の事と霊的な事もバランスよくしなければならないと強調しました。しかし、世の中を生きながら肉身の事と霊的な事をバランスよくするのは難しいです。バランスよく生きる方法は肉身の事が目的になってはいけなくて信仰生活をもっとできる手段になるべきだとしました。瞬間その話が私にくださる解答であることを悟りました。

作曲と学生の身分も金曜礼拝伴奏の職分もすべて神様が予備して導いて育ったのを考えました。そして、伴奏が出来ない状況が来ても学業が目的にならなくて神様を持った捧げる手段になろうと決断しました。音楽的な才能を伸ばして神様に栄光を捧げる聖徒になろうと決心しました。私に以後神様は大きい恵みと愛を与えてくださいました。

神様が私を金曜礼拝と主日の午前１１時礼拝の伴奏者で立たせてくださいました。また、教会学校の高等部の教師の職分を任せてくださいました。子供の時イエス様を信じて福なる信仰生活をはじめて今まで神様に尊く用いられたこのすべてが神様が私を愛して私の為計画して摂理してくださったのです。伴奏者で礼拝のため奉仕し教師として成長する子供のため献身したことと、その場がいくら感謝する場所なのか悟ってのが全て神様の恵みです。

振り替えてみるとすべてが神様の摂理でした。"人間の心は自分の道を計画する。主が一歩一歩を備えてくださる。（箴言16：９）御言葉のように私の知恵と力でなったのはないです。すべてが神様が予備して導いてくださった恵みです。

そして、私は祈りながら神様にこの御言葉を受けて実際にこの御言葉の意味を知りました。"どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト.イエスによって守るでしょう。（フィリピの信徒への手紙４：６～７）初めは苦難と迫害と誘惑が来た時、自分の力で解決しようとしましたが自分の力で解決したのはないです。しかし、祈りをして神様に委ねて信仰と希望を忘れなかった時、神様は私に結局は勝利するように私を善のなる道で導いてくださいました。

このように信仰と愛と希望をくださった神様、尊いタレントを下さって用いてくださる神様に感謝を捧げます。これからこのタレントが倍に成長させて下さい、もっと尊く用いてくださる神様の恵みを期待し祈ります。ハレルヤ！

[信仰コラム]　疑いを治める秘訣

"...栄光を神に帰し、神はその約束されたことを、また成就することができると確信した。だから、彼は義と認められたのである。"(ローマ人への手紙 4:18~22)

"疑いを治める秘訣"を調べてみましょう。
まず、疑いの種類に関して調べましょう。
疑いの中には否定的な結果をもたらす疑いがある反面、肯定的な結果をもたらす疑いもあります。否定的な結果をもたらす疑いを三つに分けることができます。一、無知による疑いがあります。二、我執と傲慢による疑いがあります。三、精神的な病による疑いがあります。妻や夫を深刻に疑うこともそうです。ある特定な事に対してだけ信じない疑いもあります。
肯定的な結果をもたらす疑いを二つに分けることができます。一、探究的な疑いがあります。真実を知ろうとする疑いです。二、確信に至ろうとする過程での疑いがあります。復活なさったイエス様を見たという弟子達の話を聞いてトマスは自分が直接確認しない限り信じないとしました。その後、復活なさったイエス様の前でトマスは"わが主よ、わが神よ"と話しました。トマスの疑いは疑うための疑いではなく確信のための疑いでした。

次は、否定的な性格を持った疑いがもたらす悪い結果について調べてみましょう。
一、疑いは不必要な心配に悩ませます。二、疑いは情緒的な安定を崩してまるで帆柱が折れ、錨が絶たれた船が風と波に襲われるように私達の生活を漂流するようにします。三、劇甚な疑いは理性を麻痺させて非正常的な行動するようにします。四,疑いは神様に対する信仰を毀損させます。サタンは信者が神様の御言葉を疑うよう誘導します。私達が苦境に処する時、神様を疑うよう誘導します。神様の存在に対する疑い、神様の能力に対する疑いを持たせます。
最後に、悪い結果をもたらす疑いを治める秘訣を調べてみましょう。
一、神様は彼が言約なさった御言葉を適切な時に適切な方法で必ず叶えられることを私達が信じて忍耐すべきです。アブラハムとサラは神様の時を待たずつかえめハガルを通じて子供を生んだので過程の風波を経験しました。神様の約束は必ず神様の時に叶えられます。人間の不器用な知恵と方法で早めると問題の解決ではなく却って問題の始まりになります。ハガル事件によって教訓を得たアブラハムとサラは神様の権能と真実を完全に信じました。
二、キリストイエスの中にいる人には神様の約束がいくらでも"はい"になるということを知って信じなければなりません。イエスキリストを信じると神様が与えてくださる驚くべきな恵みを享受します。罪の許し、正しくなる、神様の子になる、天国の市民になる、聖霊様の教えと導きを受ける、お祈りが神様に上達する、復活の光栄に参加するそして数えられない多くの福々しい約束を所有します。イエスキリストの誕生と生涯、贖いの死と復活そして昇天は神様の御言葉は必ず叶えられて彼の約束は変わりがないという事実を証明しています。このような事実によって感謝しながら生きていくと神様の愛と能力と真実に対する疑いが心に浸透する余地がありません。
皆さんは、神様の御言葉と言約を握ってください。そしてこのように話してください。"神は人のように偽ることはなく、／また人の子のように悔いることもない。言ったことで、行わないことがあろうか、／語ったことで、しとげないことがあろうか。"、"ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。"。従って、皆さんの心には疑いが入る場がなく、神様の権能と真実と愛に対する確信で充満であるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

すべてのことが常に神に感謝しなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は獣と違って精神的な存在であるので、正常な人であれば、神を認識することができます。神がどんな方であるかを知っている人は、神に感謝するべきでございます。もしクリスチャンでありながら、神に感謝するのがない生活をしている場合、明らかに問題があります。その精神は鈍くなった証拠です。神への向け聖徒たちの感謝を分析してみると約三つに分けることができます。

第一は、信仰による感謝があります。

この信仰は、神への信仰です。神の属性に関連した信仰と神の言約に関連した信仰です。
モーセは、イスラエル人の親から生まれた、または、紆余曲折の末、エジプトの王パロの王女の養子となった。モーセは王宮で育ったエジプトのすべての学問を通達しました。彼の年齢 40 歳になったとき、同族がエジプト人から虐待されるのを見て、心が痛みました。彼は奴隷になった同族を救うと決心しました。ある日、モーセは、イスラエル人を虐待するエジプト人を殺しました。
ところが、これを見たイスラエル人がエジプトの王パロにモーセを告発しました。同族に裏切られたモーセは、ミデヤン荒野に逃げてエテロの家で羊飼いになりました。歳月ははかなく流れいつの間にか 80 歳の高齢になりました。ある日、羊の群れを率いて、荒野の西側ホレブ山に至りました。モーセが行ってみるとしばが燃えた奇しくも木は燃えらなかった。モーセが近い行って見ると、火のつくしば森の中で神の声が響きました。神はモーセに指示されるのを**「いまイスラエルの人々の叫びがわたしに届いた。わたしはまたエジプトびとが彼らをしえたげる、そのしえたげを見た。さあ、わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう」**（ **出エジプト記**，3：9,10）しました。モーセが神に尋ねました。
「わたしがイスラエルの人々のところへ行って、彼らに『あなたがたの先祖の神が、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と言うとき、彼らが『その名はなんというのですか』とわたしに聞くならば、なんと答えましょうか？」（ **出エジプト記** 3:13）神は答えては**「わたしは、有って有る者」。また言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい、『「わたしは有る」というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』**と言われた神の言葉は、神の自存性、永遠性、絶対性、唯一性を明らかにしています。神は全知全能で どこにでもおられます。義である、真実で善であります。神様がくださった尊い約束が、聖書に記録されています。皆さんはこれらの神の属性と約束の信仰によってすべてのことにいつも感謝しながら生きて行きなさい。そして、神様が私とともにおられ助けてくださるのを信仰によってすべてのことにいつも感謝する生活をしてください。これらの感謝は、神を尊んで大いなるて喜ばれます。

第二は、望みによるの感謝があります。

荒野を行進したイスラエルの民にあった事件は、荒野のような世の中を生きていく聖徒たちに貴重な教訓を与えます。イスラエルの多くは、荒野で滅ぼされた理由はいくつかあるが、その中に恨み不平が大きい要因です。彼ら恨み不平を言った理由の慢性的な弊害は簡単挫折し落胆する癖です。挫折し落胆する私たちの心からの願いが消え不平と恨みが定着されます。エジプトから解放されたイスラエルの民は、モーセの指導の下で、神、彼らの先祖たちに言約された乳と蜜の流れるカナンの地に向かって出発しました。神が雲の柱、火の柱で彼らの道を導き始めました。
神はモーセにこう指示しました **「イスラエルの人々に告げ、引き返して、ミグドルと海との間にあるピハヒロテの前、バアルゼポンの前に宿営させなさい。あなたがたはそれにむかって、海のかたわらに宿営しなければならない。 パロはイスラエルの人々について、『彼らはその地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった』と言うであろう。わたしがパロの心をかたくなにするから、パロは彼らのあとを追うであろう。わたしはパロとそのすべての軍勢を破って誉を得、エジプトびとにわたしが主であることを知らせるであろう」。彼らはそのようにした。」（ 出エジプト記，14：2-4）**。
神が自身がなさることをこのように詳しくあらかじめ教えてくださったイスラエルの民は、神の言葉に注意しないしました。紅海で天幕を張って休憩していたイスラエルの民は、エジプトの戦車と騎兵と軍隊が走ってくるのを見て深く恐れました。彼らはエジプト軍と戦うべき機器や訓練された軍事がありませんでした。隠れたり避けることができる余裕がありませんでした。彼らは恐怖と絶望に主に叫びました。彼らはモーセに恨み不平ました。もしイスラエルが神あらかじめ知らせてくださった言葉を心に置いたならば、絶望していないものであり、これらの苦境がかえって慰めになって希望になったことです。
一生を生きていく間に試練を受けて失望している場合があります。このような時、あなたは詩篇の記者のように言いなさい。
「 わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう」（ 詩篇４２：5）神は、聖徒たちのために、より良いものを備えなさらずに苦しみを許していません。そして、すべてが働かせて益となるようにしてくださいます。聖徒たちは絶望がありません。すべてのことが常に希望を持つことができます。皆さんは、キリストにあって持つようになるこれらの望みによって、すべてのことが常に神に感謝する生活をしてください

第三は、愛によるの感謝があります。

イエスはパリサイ人シモンの招待を受けて、弟子たちと一緒に行きました。イエスがパリサイ人の家に入って食卓に向かって座りました。当時のユダヤ人の食事習慣は、低い椅子に体を食卓に向かって斜めにして食べ物を食べました。そんな姿勢をすると足は裏側に向けます。イエスの弟子たちはもちろん、複数の人がそこにいました。そこに一人の女性が登場しました。近所の村の人に罪人と扱いを受ける女性でした。
この女性が香油を込め瓶を持って、イエスの裏側に来て足のそばに立って涙を流して泣きました。女性の涙がイエスの足を濡れました。女性は膝の上に頭を下げて、自分の髪の毛でイエスの足を洗って、その足に口づけ香油を注ぎました。人々の視線が一斉に女性に焦点を当てています。パリサイ人シモンは、イエスが預言者かもしれないという考えを持っていた罪深い女性が行うことを放っておいていらっしゃるイエスを見ながら、預言者ではないんだという結論を下しました。
これらのパリサイ人の心をイエスが読んで、意味深い話をしました。「ある債権者に借りている者の二人がいたが、一人は五百デナリを借りたし、他の人は五十デナリを借りた。ところが、彼らは返済能力がないので、債権者が両方の蕩滅してくれた。それでは、その両方のうち、誰が彼を愛しだろうか」シモンが答えました。「もっと救済を受けた方だと思います。」イエスは、「あなたが正しく判断した。」としました。**「それから女の方に振り向いて、シモンに言われた、「この女を見ないか。わたしがあなたの家にはいってきた時に、あなたは足を洗う水をくれなかった。ところが、この女は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でふいてくれた。あなたはわたしに接吻をしてくれなかったが、彼女はわたしが家にはいった時から、わたしの足に接吻をしてやまなかった。あなたはわたしの頭に油を塗ってくれなかったが、彼女はわたしの足に香油を塗ってくれた。それであなたに言うが、この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない」（ ルカによる福音書，7：44~47）**。この言葉は、一人一人が神の前で自分がどのように大きな罪であるかを知っている程度の大きさと、神を愛するほどの大きさが比例するという意味です。
私たちが神を愛することは、神の愛を受けた結果です。神の愛を悟るほどに神を愛するようになります。そして、神へ向けの愛は、感謝で表現されます。口さえだけ感謝ではなく、すべての良いものを差し上げを通じて感謝を表現するようになります。聖徒の皆さん、日増しに神の愛の悟りがさらに豊かになることを求めてください。そして、神への愛がさらに深くなり、神への感謝があふれるようになることを願います。

聖徒の皆さんは神の属性と言約の信仰によってすべてのことが常に神に感謝しなさい。患難が祝福されて苦難が栄光になれ、すべてが共に働かせて益になるという希望によって、すべてのことが常に神に感謝しなさい。そして、神がキリストにあって私たちを愛しておられるその驚くべき愛の悟りのゆえに、神への愛で満たされ、すべてのことが常に神に感謝するのをお願いします。